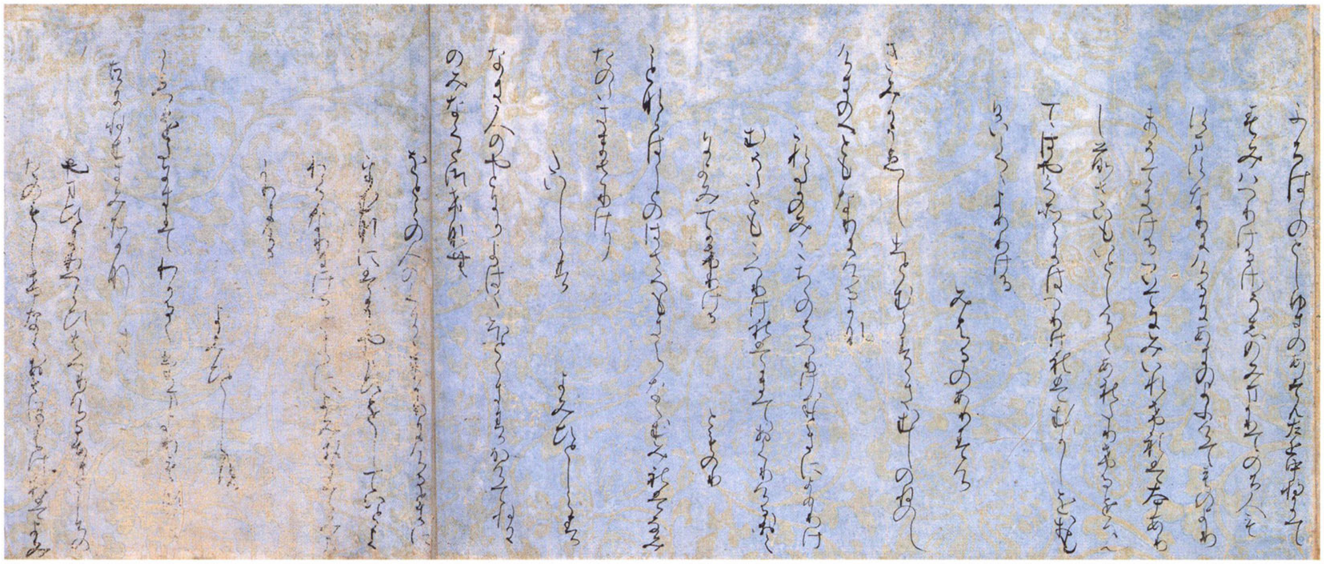

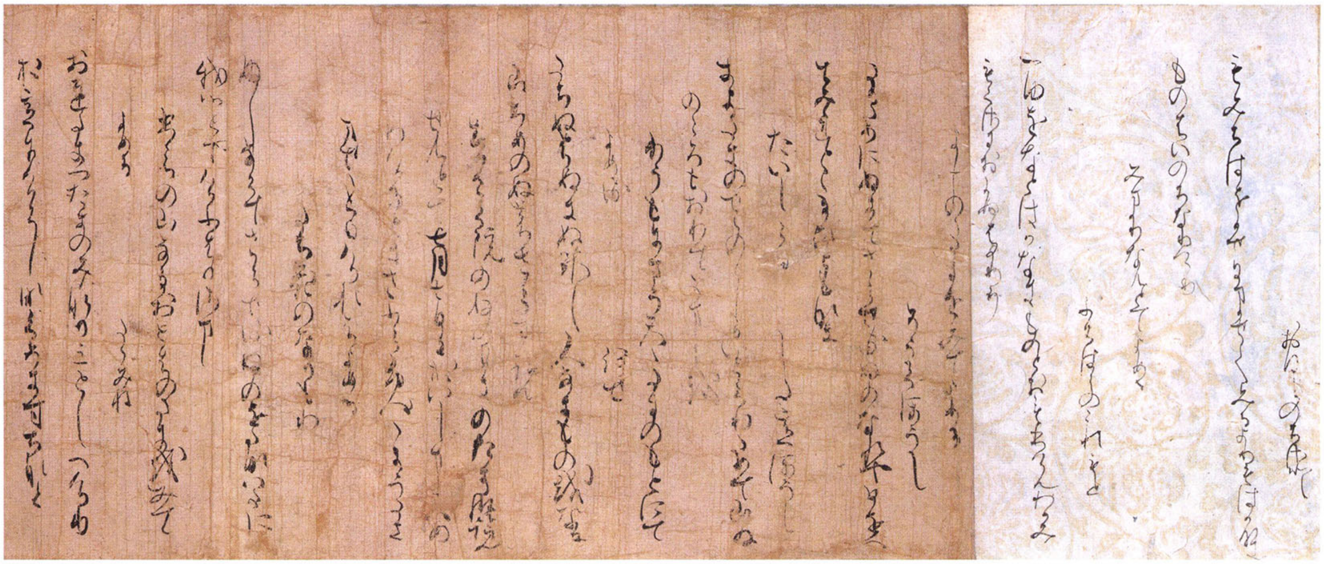

18　本阿弥切本古今和歌集　伝小野道風

一巻〔三の丸尚蔵館〕

彩箋墨書　一六・七×二三九・四
平安時代、十二世紀

白、縹、茶色の具引き地に、唐草文や花菱文などの型文様を雲母刷りした船載の唐紙に『古今和歌集』を書写した断簡で、巻第十六の大半と巻第十七の六首が残る。美しい文様の上に書された文字は、小粒ながら力強い筆致で抑揚をリズミカルにつけながら流麗に書き連ねられる。和歌一首を、二行書き、散らし書き、三行書きと、自由に変化をつけて書き進める様子には、筆者の装飾的感覚にも優れた能筆ぶりがうかがえる。

「本阿弥切」の名称は、安土桃山～江戸時代初期を代表する芸術家で、寛永の三筆の一人としても知られる本阿弥光悦（一五五八～一六三七）が愛蔵していたことによる。

当館の断簡は、もとは近衛家に伝えられたもので、文芸に卓抜した才を示した近衛家熙は、筆者を小野道風と鑑定し、自らが模写した本断簡のうちの四葉が〈予楽院臨書手鑑〉に収められている。後世、著名な文芸人たちに愛された名品の一つである。

（釈文は115～116頁参照）

・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

書の美、文字の巧

三の丸尚蔵館展覧会図録№74

編集　宮内庁三の丸尚蔵館
　　　宮内庁書陵部
制作　株式会社　東京美術
翻訳　黒川廣子
発行　宮内庁
平成二十八年九月十七日発行
©2016, The Museum of the Imperial Collections, Sannomaru Shōzōkan
The Archives and Mausolea Department
Imperial Household Agency